

年間第25主日

すべてのいのちを守るための月間

福音朗読 マルコ 8・27-35

2024.9.22 9:30 ミサ

カトリック高円寺教会

カトリック洗足教会主任司祭 山根克則神父

洗足教会の山根神父です。

この教会に初めて来たのは上智大学の学生だった頃でした。今日はその時以来のこと。

今日の福音の一句「このような子供の一人を受け入れる」(マルコ 9・37)というみことばをどう受け止めるか、これは信仰者には大きな課題。

自分の子どもを信仰者として教育するのは当たり前として、養護施設の子どもたちにも心を配るといふ大きな課題が信仰者にはあると思います。わたしの教会のすぐそばにフランシスコ会のシスターたちの施設があり、信徒たちはその施設の子どもたちのためにミサの共同祈願で祈り、バザーの利益の一部はここに送ります。

養護施設への心配りと言えば、ここ高円寺教会もフィリピン、ダバオの郊外にある「ハウス・オブ・ジョイ」を応援していると聞いています。洗足教会のバザーにはここからそのグループの数名が来て来てくれていますね。

「ハウス・オブ・ジョイ」は長崎の信徒、^{からすやまいつ お}鳥山逸雄さんが建てた施設。彼は大学時代に農業を勉強し、平和部隊の一員としてダバオに行きました。その彼が現地で見したのは<ストリート・チルドレン>。現地の女性と結婚して日本に帰国後、長崎の養護施設の指導員になり、養護施設の全般を学び、再びフィリピンに渡り、ダバオの郊外の小教区の教会の隣に施設を建てました。これが「ハウス・オブ・ジョイ」。

日本では養護施設は公費で運営されていますが、フィリピンでは国からは1ペソも出ません。すべて寄付金で賄われます。

「ハウス・オブ・ジョイ」の運営費は日本中の善意の人々の寄付。

この教会の数名が「ハウス・オブ・ジョイ」の運営費集めに関わっていますね。その人たちが洗足教会のバザーに毎年来てくれます。

洗足教会の信徒たちの数名は「ハウス・オブ・ジョイ」に行きましたし、援助もしています。

洗足教会には幼稚園があるのですが、園児は毎年、10月になると献金箱を手作りし、ママの手伝いで貰ったお金を献金箱に入れ、2学期の終業式には聖家族

のご像の前に捧げます。サンタさんが「ハウス・オブ・ジョイ」まで届けてくれることになっているのです。

日本から送られるお金に対して「ハウス・オブ・ジョイ」は「ありがとう」の言葉で済ませているのでしょうか。

「ハウス・オブ・ジョイ」の子どもたちには<祈り>が欠かせない日課になっています。夕食が終わると、食堂の片隅に置かれている聖母の像の前に皆が^{ひざまず} 跪き、祈りをするのです。高校生から 3 歳の幼児までコンクリートの打ちっぱなしの床の上に跪いて。

このように祈る子どもたちをマリア様も主イエスもお見捨てにはならないようです。

この教会で「ハウス・オブ・ジョイ」の集会があるとき、温かく見守ってください。「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者」(マルコ 9・37)の一人に教会の皆がなりますように。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>